

解答

(a) ② (b) ①

傍線部を見ると、まず使役形の「使」に目が行くだろうが、返読文字の「欲」にも注目してほしい。「欲」は動詞から返る形で用いられる返読文字で、「欲A」で「A(せ)んとほす」と訓み、「Aした」という意味となる。

これに、使役の訓み(ゝをしてゝせしむ)を合わせれば、(a)の返り点と書き下し文は②で決まる。

①・③・④は「使」の訓みが×、①・④・⑤は「欲」の訓みが×である。

続いて(b)は、(a)②に対応する解釈であるから、①「高い地位につかせてやりたいと思う」が選べるだろう。②「派遣したい」、③「人物にしたい」では使役の意味が含まれていない。また、④「結果である」、⑤「理由である」は、「欲」に返って最後に訓むという形の解釈になっていない。

本問のように、句法だけでは正解が確定できず、**返読文字が決め手になる**という問題は多い。『新装版新・ゴロゴ漢文』の「基礎編 4 返読文字」で整理しておこう。

選択肢チェック

問

傍線部A「必欲使之在尊貴之所」について、(a)返り点の付け方と書き下し文、(b)その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(a)

- ① 必欲_レ使_レ之 在_二尊貴_一之所
 必ず之を使はんと欲するは尊貴の在る所なり
- ② 必欲_レ使_三之 在_二尊貴_一之所
 必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す
- ③ 必欲_三使_三之 在_二尊貴_一之所
 必ず使ひの尊貴の所に在らんことを欲す
- ④ 必欲_三使_レ之 在_二尊貴_一之所
 必ず之を使ひて尊貴に在らんと欲するの所なり
- ⑤ 必欲_三使_三之 在_二尊貴_一之所
 必ず欲して之をして尊貴に在らしむるの所ならん

「使」を使役形で
 訓んでいない
 ので×

「欲」は返読文字なので最後に返って訓む。よって×

- (b)
- ① 必ず教え子が高い地位につかせてやりたいと思う。
「使」 「欲」
 - ② 必ず教え子を高官のもとに派遣したいと思う。
「使」 「欲」
 - ③ 必ず教え子を皇帝の役に立つ人物にしたいと思う。
「使」 「欲」
 - ④ 教え子をなんとかして出世させたいと思った結果である。
「使」 「欲」
 - ⑤ 教え子に正しい教育を施してやりたいと思う理由である。
「使」 「欲」
- 「使」を最後に解釈していない
- 使役形の意味がない

書き下し文

張無垢云ふ、「某人家の子弟の醇謹及び俊敏なる者を見れば、之を愛すること、唯だに常人の宝を愛するがごとく、唯だ其の埋没及び之を傷損するを恐るのみならず、必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す。故に人家の子弟を教ふるに、敢へて一点の欺心も萌さず」と。

現代語訳

張無垢が言うには、「私めは、よその家の子弟で素直でつつしみ深く頭の回転も早い者を目にしたときには、この子を愛する気持ちは、ふつう人が宝物を大事にするように埋もれて傷がつくのを恐れるだけでなく、なんとかして高い地位につかせてやりたいと思う。だから、よその家の子弟を教えるにあたっては、わずかばかりでも欺こうとする心が生じたこととはけっしてない」と。

重要語句

□ 不啻 「啻」は「唯」「惟」などと同じ。累加形で「ただにのみならず」と訓み、「くだけではなく」の意。

解答

①

本講でも前講に引き続き、返読文字がポイントである。傍線部中の「若」に注目しよう。「A若B」で「AはBのごとし」と訓み、「AはBのようだ」という意味である（比況形）。「若」の前後で「A」≠「B」の関係になっていることを押さえよう。傍線部では、

A（思天下匹夫匹婦有不被其沢者）

≡

B（己推而内之溝中）

と、「自分が」～と思うこと」≠「自分が～すること」の関係が成立している。

まず、Aにあたる「思天下匹夫匹婦有不被其沢者」は、直訳すれば「天下の人民（匹夫匹婦）にその（行う道の）恩沢を受けられない者がいると思うこと」となるから、③・⑤の「互いに恩恵を与えあわなければ」は誤りと判定できる。

次に、Bにあたる「己推而内之溝中」は、直訳すれば「自分が押（推）してこれを溝の中に入れる」であるので、**指示語の「これ（之）」が指すものがポイントとなる。**

選択肢を見ると、①は「自分がその人間（≡天下の人民）を溝の中へ突き落とす」と、②は「自分がその人間に溝の中に突き落とされた」、④は「自分が溝の中に落ち込んだ」となっており、「これ（之）」が指すもの、つまり、溝の中に入ったものは、①が「その人間」、②と④は「自分」である。しかし、自分が押して溝の中に入れるのであるから、自分が溝の中に入るとは考えられない。よって②・④は消去され、①が正解と判定できる。

改めて傍線部全体を直訳すると、「天下の人民に恩沢を受けない者があると思うことは、自分が押してその人間を溝の中に入れる（入れて苦しめる）ようなものである」となる。①はこれを、「恩沢に浴さない者があれば（～のように思う）」と仮定の形で意識しているのである。

選択肢チエック

問 傍線部A「思_下天下匹夫匹婦有不_レ被_二其沢_一者_上若_三己

推而内_二之溝中_一」の解釈として最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから一つ選べ。

←「若」を仮定として意識している

① 天下の人民一人でもその恩沢に浴さない者があれば、自分がその人間を溝の中へ突き落としかのよう思う。

② 天下の人民一人でもその恩沢に浴さない者があれば、自分がその人間に溝の中に突き落とされたかのように思う。

③ 天下の人民一人一人が互いに恩恵を与えあわなければ、自ら進んでその人間を溝の中に突き落としかのよう思う。

④ 天下の人民一人でもその恩沢に浴さない者があれば、わが身に推し量って自分が溝の中に落ち込んだかのように思う。

⑤ 天下の人民一人一人が互いに恩恵を与えあわなければ、彼ら自身押しあつて、溝の中に突き落としかのよう思う。

「己推」|| 自分が押して溝の中に突き落とすのは「天下の人民」である

書き下し文

古人云へる有り、「常に善く人を救ふ、故に人を棄つる無し」と。且つ大丈夫の学に於けるや、固より神聖の君に遇ひ、其の道を行ふを得んと欲す。天下の匹夫匹婦に其の沢を被らざる者有るを思ふこと、己の推して之を溝の中に内るるがごとし。能く小大の生民に及ぼす者は、固より惟だ相のみ然りと為す。既に得べからずんば、夫れ能く人を救ふの心を行ふ者は、良医に如くは莫し。

現代語訳

古の人が言うには、「つねにうまく人を救う。だから人を見捨てることはない」と。加えて、大丈夫たる者が学問に志すにあたって、神聖なる君主にめぐりあつて正しい道を行いたいと思うのは当然のことである。天下に一人でもその恩恵を受けない者がいるのではないかと思うことは、自分が押し溝の中に突き落としかのようである。すべての民に恩恵を及ぼすことができるのは、もとより宰相のみである。すでにその地位を得ることができないのであれば、人を救いたいという心を実行できるものとしては、良医が一番である。

重要語句

- 惟 「ただ〜のみ」と訓む。限定形で「〜だけ」の意。(↓第22講参照)
- 莫如 「〜にしくはなし」と訓む。比較形の最上級で「〜に及ぶものはない」の意。